

Go for it !! ②

<https://toyono-jinjikyo.com/>

令和 4 年度 (2022 年度)
5 年経験者研修 児童生徒理解研修
(中堅教諭等資質向上研修)

第 2 回は、大阪教育大学教職大学院の水野治久先生に演習を交えての講義を動画でしていただきました。学級経営や子ども理解について、これまでの学級や子どもたちとの関わりなど、経験と結びつけながら聞くことで、実感しながら理論を理解することができました。(以下は振り返りシートの抜粋です。)

～振り返りシートより～

自分のクラスを客観的にとらえる大切さを学ぶことができ、いかに自分が主観的に教育をしてしまっているのかということが分かりました。講義では、まさに客観的にクラスを見るためにクラスの荒れ度合いをフェーズで整理されていたので、自分のクラスがどんなクラスか、自分はどんなタイプの学級がしやすいかなど注意しなければならない点や伸ばしていこうと思う点も整理できました。また、学校を支えるミドルリーダーになっていくという点では、自分のクラスだけを考えるのではなく、先生方の多様な考え(講義の中の P 型か M 型か)だけでなく、先生方もエンパワメントできるような学年、職場づくりをすることが大切だと学びました。日ごろから経験年数の少ない先生への言葉かけなどを意識し、相談しやすい環境にしていこうと思いました。

一人で生徒指導をするのではなく、学年というチーム、学校というチームで指導していくことが大切だと思いました。私は P タイプの指導でしたが、学年にはきっと M タイプもいて、その先生も授業を通して生徒指導をしていることで、学級がうまく回っていくこともあります。私たち 5 年目の教師が、学年や学校がチームとなって行動していけるように役割を担っていく必要があると考えることができました。

学級集団がつけられる発達理論では、今まで経験したことが理論化されていて、逐一うなずきながら受講しました。今までのクラス経営で感じた大事なことの一つに、「教師が離れて見ていられる集団をつくること」があります。まさにそれは表でも示されている自治的集団であって、感覚的にめざしていたことが間違っていたかと思えて励まされました。自治的集団に必要なものがルール・関係性というところも、感覚で分かっていたものが言葉になって、なるほどと思いました。

この研修を通して、学級経営がいかに大切かということが分かりました。この 5 年間、自分の経験を積んできましたが、どれが正解か、これで合っているのかを迷いながらきたところもあります。規律を重んじようと厳しくしすぎても、子どもがついてこられていないと感じたことや、生活面を厳しくするのか、学習面を厳しくするのか、両方を厳しくするのかなど、その時々に応じた経営や方針を変更しなければならないこともありました。しかし、自分がぶれてしまっただけでは子どももぶれてしまうので、「こんなクラスにしたい」という気持ちを自分がしっかりもつことが大切だということを改めて感じる研修になりました。

昨年度は、休み時間に子どもたちと遊ぶことでつながりをもつように意識していました。その反面、学習規律を重視するだけの言葉や態度を示せていなかったと感じます。今年度は 1 年生の子どもたちを目の前にして、学習規律の大切さを身に染みて感じています。「チャイムで座る」、「話を聞くときは手を止める」、「話している人が話し終わるまで黙って聞く」、「必要のないものは机に出さない」などの小さな学習規律をおろそかにすると学級は簡単に緩むと思います。「学級の安定が子どもの学びに関係がある」という言葉の通り、学級の安定は子どもの学習意欲や集団生活に直結していると思います。P 機能と M 機能を上手に使い分け、メリハリのある学級をつくりたいです。

児童を指導するにあたって、個々の特性に応じて様々な立場の方と協力していくことが必要であると、これまでの経験から痛感しています。同じ学年所属の先生はもちろん、専科の先生、管理職の先生、SC、SSW など児童の実態に応じてチームで手立てを考え、対応したおかげで、児童のために少しでも良い取り組みができたことがあります。学級経営がうまくいかず悩むこともありましたが、一人で抱え込むことで悪い方向に行ってしまう前に、早急に相談し、児童のために何ができるのかを考えていきたいです。

「学級経営には一定の方法論が存在しない」というお話に納得し、今までの経験が今の自分の学級経営につながっているなど感じました。自分で分からないことは周りの先生たちに聞き、いろいろな経験をしている人たちの話を聞くことが方法の一つだと思いました。また、学級集団発達理論を聞き、4月当初の学級開きの時の「混乱・緊張期」の重要性も理解しました。つい強い学級をつくりたいと思い、焦ってしまうこともありますが、今この場にいる子どもたちの実態や状況をまずはよく見て集団づくりをしていかなければいけないことが分かりました。学級であったことをその都度、学年で共有して、チームでこれからもがんばっていきましょうと思いました。

今回の講義を受けて、今の自分の学年や学級に当てはめて考えてみると、4月当初は小集団の時期だったように感じましたが、1学期での宿泊学習の時期からは中集団、時には自治的集団の場面だったように感じました。その理由を考えてみると、今回の講義の各集団のポイントが見受けられ、子どもたちが自発的に行動し、小さな集団から少しずつ大きな集団へと変容したように感じます。学年全体が自治的集団になれるようにするためにも、まずは普通の授業から取り組む必要があると改めて感じました。

日々の指導で学年の実態にも目を向け、学年団の教職員と共に連携をしながら個に応じた指導・支援をおこなっていくために積極的に声をかけ、チームとして取り組むことが重要だと考えました。また、自分よりも経験年数の少ない教職員がどんどん増えていく中で、学級経営能力の低下についても考えさせられることがあります。そんな中で、今回の研修や他の研修会で得た知識、自らの経験等も活かしながら、他の教職員のもちあじを捉え、それを活かした児童生徒支援の在り方を教員間で共有し、考えていく時間をつくる必要があります。私自身もさらに様々な児童生徒理解・支援の在り方について先輩方に相談し、より質の高い安定した学級・学年経営をめざしていきたいです。

みなさんにはこれまでの経験の中で培ってきたものがたくさんあると思います。この一年間の研修受講を機に、「これまで」を振り返ることと、「これから」を見据えるようにしてください。気づけば後輩も増え、校内で担う役割も変わってきている時期だからこそ、自分には何ができるのか、校内で何を担っていいのか、そのためにこれから何を意識していく必要があるのかを指標（研修の手引 P.7～9）とご自身の知識・経験を照らし合わせるようにして考えてみてください。今後のみなさんの活躍は必須です。所属の学校や市町、そして豊能地区を支える教員として、学び続けることを期待しています！



ONE TOYONO!

「研修修了レポート」について

第4回は、「研修修了レポート」をもとに実践報告・交流をおこないます。別紙の配付資料（第1回の提示資料、振り返りシートの抜粋）も参考にして、研修当日にむけて各自の実践をまとめるようにしてください。

重要!

※「研修修了レポート」は事前に所属校の管理職の先生にデータ提出してください。管理職の先生を通じて所属市町教育委員会（教育センター）へ提出されます。また、**研修当日には各自6部印刷して持参してください。**（交流する際にグループの先生方に配付します。）

【第4回について（研修の概要）】

★1班：1月17日（火） / 2班：1月26日（木）

*振替受講は可能です。事前にスケジュールをご確認ください。

★1グループあたり5名程度で実践報告と交流をします。

*グループの構成は、市町・校種混合を予定しています。

★一人あたりの持ち時間は8分程度です。内訳は、実践報告の5分と報告後の質疑応答や交流・意見交換などで3分をめやすに進行します。

